

感想、意見・質問の集約

(1) 災害時要援護登録者制度に関する質疑に対して（市危機管理課に確認したこと）

- 緊急連絡先として地域の知り合いの人の電話番号の欄があり、私はその箇所が埋められないので、登録はしたかったのですが提出できませんでした。

○市危機管理課からのコメント

その項目（電話番号の記入）がなくても一応対応できます。

知り合いがいない場合は、リストを受け取った町内会で支援者をつなぐ動きとなります。（自治会によって違いもあります。）

最初は知り合いが無い状態でも、これをきっかけに日常的な付き合いを深めていただき、支援者を作ってほしいところです。

- 町内の障害者に対しての情報や声掛けなどのリストは開示されることはなく、指示もありませんでした。地域における障害者、特に一人暮らしの障害のある方についての災害時の備えや避難へのサポートなどが課題であると感じました。地域と障害のある方との繋がりが、かなりうすく災害時、障害のある方が取り残されるのでは？という不安さえあります。

○市危機管理課からのコメント

75歳以上の高齢者と要支援介護者は健康福祉政策課が名簿を作成し、危機管理課から町内会にお渡ししていますので、自治会で支援の体制を組むなどの対応をしておられるようです。障害者の場合、以前、新規の対象者の方への訪問リストに基づいてご案内の訪問をしたところ、「民生委員に知られたくない」という方がおられ、トラブルになった事例がありました。その後、障害の方は障害福祉課から直接、障害者の手帳を生じている方に郵送で案内しています。

(2) 要望や課題と思われること

- ・地域で孤立している人のための援護を考えていただきたいと思います。
- ・特に車いすに対応できない小規模避難所と大規模避難所、福祉避難所との連携は必要であるが、どの避難所も車いす等に対応できる体制（スロープ・ブルーシートを敷くなど。介助人員含む）を早いうちに整えてほしい。
- ・今までのような防災対策ではなく、日々考えて改善していくことが大切と感じた。今回の講義を聞いていても市とのそもそもの考え方の違いが大きいと感じた。これを埋めていくために、まずは身近なところで話しをすすめたいと思います。
- ・台風時にも避難された高齢者の方もいますが、避難先の職員さんの対応が良くないとききました。もし、その場に障害の方がいたら対応はどのようなのでしょうか？安全を求めて避難されていても、対応がしっかりしていないと避難できないと思います。
- ・避難するかしないかは個人の判断ともいわれましたが、独居も障害者があるのかどうかは疑問です。

視点 『キーワード』からも浮かび上がる障害者のニード

★「リスト（化）」 **「私って登録されているの？ 安心していいの？」**

- ・「リスト化されていない人もいるのでは？」

障害者のリスト化とその取扱いに課題もある。

- ・登録の方法や記入の仕方についての周知・支援が必要。

★「避難（所）」： **「必然的な配慮。これがないとダメなんです！」**

- ・障害者への情報発信や通知は、配慮や工夫が必要。

- ・避難所の在り方・運営は、障害特性などに対応できるようにする。

（例：車いすの方、集合・集団が苦手な方、設備品、介護者等）

★「準備」 **「日頃からのつながり作り！」**

- ・災害時の支援は身近な人の救助が、大きな役割を果たす。

- ・つながりの方法の模索。